



平成27年5月21日
独立行政法人国立科学博物館

奄美大島の海底にミステリーサークルを作るフグ「アマミホシゾラフグ」 が世界の新種トップ10(2015年)に選ばれました

独立行政法人国立科学博物館(館長:林 良博)の名誉研究員、松浦啓一が2014年に新種として発表した「アマミホシゾラフグ *Torquigener albomaculosus* Matsuura, 2014」が、国際生物種探査研究所(ニューヨーク州立大学)の世界の新種トップ10(2015年)に選ばれました。

「世界の新種トップ10」は国際生物種探査研究所(ニューヨーク州立大学)が生物多様性の研究や保全、そして分類学の発展のために推進している活動です。同研究所は生物多様性研究や分類学研究のトップレベルの研究者10数人で構成される選考委員会を組織し、全世界から報告される新種の中から特筆すべき10種を選考しています。動物、植物、菌類およびバクテリアなど、全世界から報告される生物の新種は、毎年約18,000種に達します。日本から報告された新種が「世界の新種トップ10」に選ばれたのは今回が初めてです。

表 題: Top 10 New Species for 2015
世界の新種トップ10(2015年)

選考組織: International Institute for Species Exploration
国際生物種探査研究所(ニューヨーク州立大学)

ウェブサイト: <http://www.esf.edu/top10/>

公 表: 日本時間 2015年5月21日(木)19時、グリニッジ標準時 2015年5月21日(木)10時

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

筑波研究施設 研究活動広報担当: 吉田聡宏

担当研究員: 松浦啓一(名誉研究員)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

TEL:029-853-8903 FAX:029-853-8998

E-mail: outreach@kahaku.go.jp

国立科学博物館 筑波研究施設HP

<http://www.kahaku.go.jp/institution/shinjyuku/index.html>

<内容の詳細>

(1) 世界の新種トップ10

- **概要**：国際生物種探査研究所（ニューヨーク州立大学）が生物多様性の研究や保全、そして分類学の発展のために推進している活動です。動物、植物、菌類およびバクテリアなど全世界から報告される生物の新種は毎年約18,000種に達します。その中から特筆すべき10種を選んで「世界の新種トップ10」を発表しています。
- **開始年**：2007年に発表された新種から10種を選び、翌年の2008年に「世界の新種トップ10(2008年)」として発表したのが始まりです。その後も毎年10種を特筆すべき新種として発表しています。
- **公募方法**：国際生物種探査研究所が、ウェブサイトやマスメディアを通じて研究者や学術誌の編集者、そして一般の人々に呼びかけて「世界の新種トップ10」の公募を行っています。
- **選考方法**：国際生物種探査研究所が、生物多様性研究や分類学研究を行っている世界のトップクラスの10数人の研究者に依頼し、選考委員会を構成しています。選考委員会は、候補となる新種の中から顕著な特徴をもつ生物や絶滅が危惧される生物などを選び、さらに、生物種の分類群の偏りが無いように考慮して「世界の新種トップ10」を選考しています。

(2) アマミホシゾラフグ *Torquigener albomaculosus* Matsuura, 2014

- **特徴**：このフグの雄（全長12cm）は、水深25mの海底の砂地にミステリーサークルと呼ばれる直径2mもある産卵巣を作ります。産卵巣には同心円状の溝があり、円の縁には二重の土手のような構造があります。このように、巨大で複雑な構造をもつ産卵巣を作る魚類は知られていませんでした。
- **他のフグとの違い**：アマミホシゾラフグは、下顎の形態や頭蓋骨の形態によって、シッポウフグ属（フグ科）に分類されます。シッポウフグ属は19種から構成されています。アマミホシゾラフグは、他の19種から体表面の小棘の分布状態や体の色彩によって区別されます。
- **分布域**：アマミホシゾラフグは、奄美大島の南岸で発見されました。奄美大島の南岸とその対岸にある加計呂麻島の北岸、そして奄美大島北部に分布しています。
- **発表論文**：Matsuura, K. 2015. A new pufferfish of the genus *Torquigener* that builds “mystery circles” on sandy bottoms in the Ryukyu Islands, Japan (Actinopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae). *Ichthyological Research*, 62: 207–212. DOI 10.1007/s10228-014-0428-5
(論文のオンライン版は2014年9月6日に出版されており、この日付が新種の発表日付となる)

※ 本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金・新学術領域研究（研究領域提案型）「生物多様性を規範とする革新的材料技術」（代表：下村政嗣）及び厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）「フグ等の安全性確保に関する総括的研究」（代表：長島裕二）の助成を受けています。

報道用の資料をご用意いたしました（添付資料を参照）。詳細な情報をご希望の方は、メールにて担当研究員の松浦宛にご連絡ください。

担当研究員： 松浦啓一（メールアドレス matsuura@kahaku.go.jp）

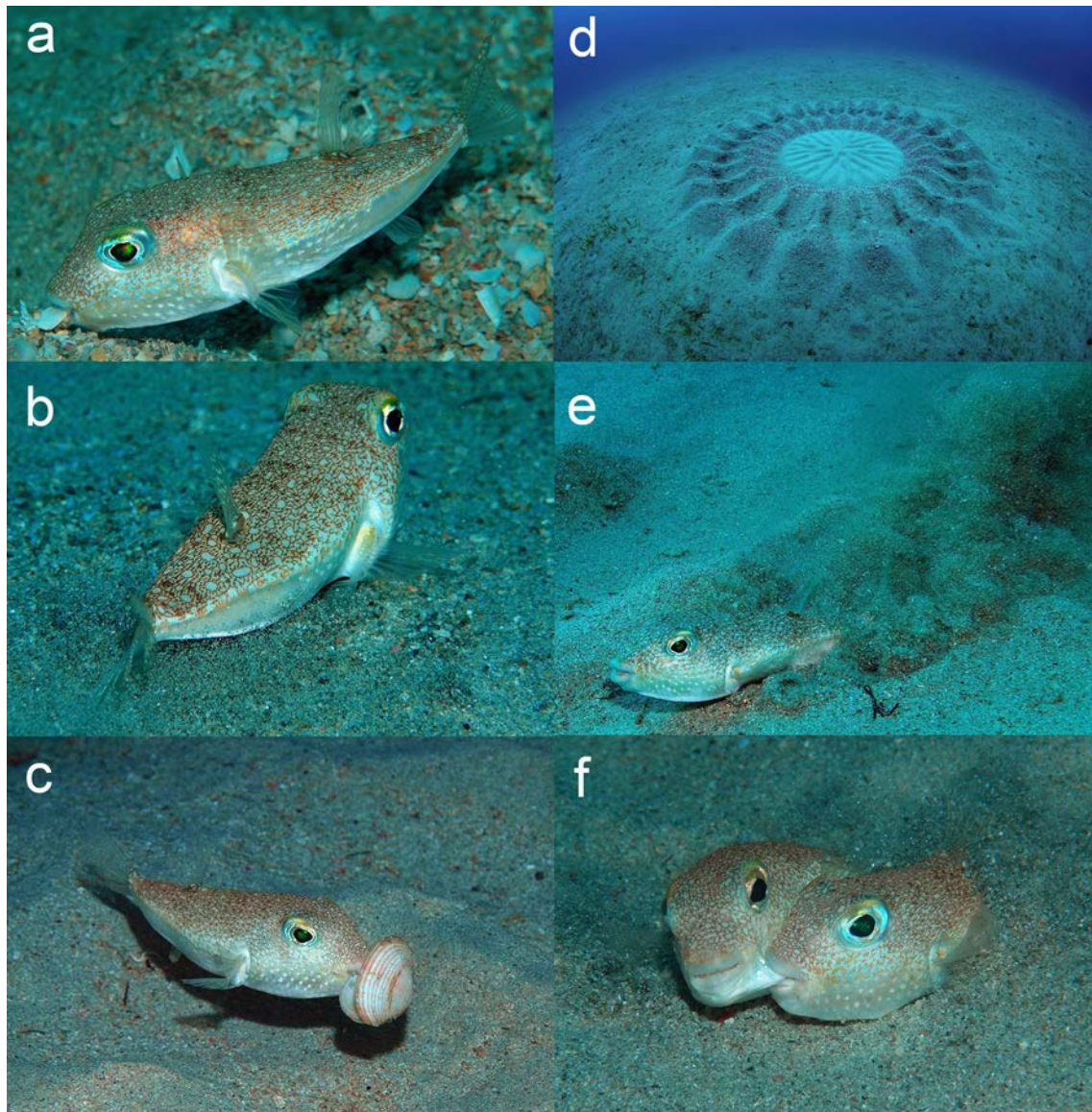


図 アマミホシゾラフグの写真

a アマミホシゾラフグの雄 ; b 胸鰭を使って砂を掘る雄 ; c 貝殻を運ぶ雄 ; d 直径 2m の産卵巣 (ミステリーサークルと呼ばれている) ; e 体の後部と臀鰭を左右に振って砂地に溝を作る雄 ; f 雄 (右) が雌 (左) の頬を咬んで産卵を促している (写真 : 大方洋二)